

Y4-23

女性の頻尿、尿失禁患者へのチーム医療の取り組み

芳賀赤十字病院 泌尿器科¹⁾、
 芳賀赤十字病院 産婦人科²⁾、
 芳賀赤十字病院 看護部³⁾、
 芳賀赤十字病院 小児科⁴⁾
 ○近藤 義政¹⁾、田中 均²⁾、中澤 貴代³⁾、
 藤井 美幸³⁾、大津 絵美子⁴⁾

当院では、2008年7月、皮膚・排泄ケア認定看護師による女性を対象とした頻尿・尿失禁相談看護外来（通称「コットン外来」）が開設された。同時に、女性の頻尿・尿失禁、骨盤臓器脱などを対象に、泌尿器科医、産婦人科医、皮膚・排泄ケア認定看護師、臨床心理士が互いに連携して、治療を行う取り組みが開始された。「コットン外来」の相談件数は増加傾向にあり、開設当初は月1-2件の相談件数であったが徐々に相談件数は増加し最近では月約30件の相談があった。頻尿・尿失禁などに関して気軽に相談できる場所がないことが、相談件数の増加に現れていると思われた。相談患者の中には、コットン外来での問診から過活動膀胱が疑われ、泌尿器科を紹介されて治療を受けた症例や、極端な頻尿を訴え泌尿器科を受診した患者を、問診・骨盤底筋体操の指導を目的にコットン外来に依頼し、問診過程で心因性頻尿が疑われたため、小児科所属の臨床心理士にカウンセリングを依頼したところ、心理的ストレスが身体症状として表出したと判断された症例があった。カウンセリング継続とコットン外来での面接・骨盤底筋体操の指導、泌尿器科からの内服治療により症状は軽快した。また、産婦人科を受診し、骨盤臓器脱の診断を受け、骨盤底筋体操の指導を目的にコットン外来を紹介される症例も増加傾向にある。医療者が互いに連携し、情報を共有し、治療に役立てることで患者の治療満足度が向上すると思われた。

Y4-24

医療チーム活動における専門看護師の役割

石巻赤十字病院¹⁾、長浜赤十字病院²⁾、
 熊本赤十字病院³⁾、大森赤十字病院⁴⁾、
 武蔵野赤十字病院⁵⁾
 ○菅原 よしえ¹⁾、藤田 冬子²⁾、赤松 房子³⁾、
 太田 有美⁴⁾、加藤 恵⁵⁾、小林 圭子⁵⁾

多職種が専門の視点を発揮し、質の高い医療をめざすことを目的にチーム活動が盛んになってきている。看護において専門分野を特定し質の高い看護を提供するために、日本看護協会では専門看護師制度による認定を行っている。専門看護の分野は老人看護、母性看護、がん看護、小児看護など10分野で、2009年6月現在では全国で302名の専門看護師が活躍している。そのうち5%（15名）が日本赤十字社の医療施設に所属し、それぞれの施設において活動が期待され、チーム医療に参画し成果を挙げている。しかし、各専門看護師の所属施設は異なり、これまで知識や技術の交流がまったく図れていなかった。そこで、各医療施設に所属する専門看護師の知識や技術の交流と向上を図るため、2009年日本赤十字専門看護師会を立ち上げた。今回、日本赤十字社の医療施設に所属する4分野（老人看護、母性看護、小児看護、がん看護）の専門看護師のチーム活動における実践の成果とプロセスを報告し、チーム形成やチーム活動促進因子を分析し、チーム医療における専門看護師の役割と今後の可能性について検討したい。